

# 平成 29 度事業計画書及び収支予算書

---

## 平成 29 年度 事業計画書及び予算書

自 平成 29 年 4 月 1 日  
至 平成 30 年 3 月 31 日

一般社団法人組込みシステム技術協会

# 一目次一

---

平成29年事業計画書	1
I. 総括	2
II. 委員会活動計画	3
事業推進本部	3
広報委員会	3
国際委員会	3
協業推進委員会	4
人材育成事業本部	4
ETEC企画委員会	4
研修委員会	4
キャリア活用委員会	5
技術本部	6
安全性向上委員会	6
IoT技術高度化委員会	7
応用技術調査委員会	8
OSS活用WG	8
状態遷移設計研究WG	9
プラットフォームWG	9
ハードウェア委員会	10
E T 事業本部	10
ETロボコン実行委員会	11
プラグフェスト実行委員会	13
Open EL 国際標準化委員会	13
CMSiS普及推進委員会	14
III. 支部活動計画	15
北海道支部	15
東北支部	15
関東支部	15
中部支部	16
北陸支部	17
近畿支部	18
九州支部	19
組織変更について	20
組織図	21
平成29年予算書	22

# 平成 29 年度 事業計画書

---

## 平成 29 年度 事業計画書

自 平成 29 年 4 月 1 日  
至 平成 30 年 3 月 31 日

一般社団法人組込みシステム技術協会

# 平成 29 年度事業計画

## I. 総括

我が国経済は、海外に起因する不安定要素はあるものの、政府の経済政策や日銀の金融緩和等を背景に輸出関連企業を中心に収益の改善が図られ、緩やかな景気回復が続いている。

他方、技術、ビジネス動向は組込みシステム技術を基盤とし、その延長上にある IoT 時代に突入したといえよう。

このような環境下、当協会の役割を再認識し、組込みシステム技術の高度化事業を中心に据え、関連する IoT 技術、サービスの団体との連携により我が国の産業振興に寄与する所存である。

上記を踏まえ、平成 29 年度の重点推進事業を下記の 7 項目とし、その事業推進に一層のぞむこととする。

### 平成 29 年度重点事業項目

1. 組込みシステム技術の調査研究活動の推進と研究成果の情報発信  
安全安心とロボット、AI を基軸とした展開と学会レベルの成果追求  
OpenEL 国際標準化の推進と実証活動強化、Drone 等の新分野への展開
2. 展示会事業の強化・拡充  
ET/IoT 総合技術展の国際化、地方展開の実施  
IoT ハッカソンの正式 WG 化
3. 人材育成事業の活性化推進  
組込みソフトウェア技術者試験「ETEC」クラス 2 の IoT 向け改定実施  
ET ロボコン運営強化によるさらなる拡大  
若年層の啓発、高齢者の活用施策の立案実施
4. 国内外協業事業の強化推進  
支部とのイベント共同展開、海外関連団体と共に催イベントの企画、実施  
IoT 市場を目指す新たな協業スキームの構築
5. 支部活動を通じた地域活性化  
本部活動との連携によるマトリックス事業推進  
地域イベントの主体的な参加
6. 協会広報の強化  
協会活動をまとめ当協会の周知に活用  
セミナー等による活動成果の地域展開
7. 政府並びに関連団体との情報交換及び連携事業推進  
組込み政策、教育を題材とした省庁および関連団体との連携推進

## II 委員会活動計画

### 事業推進本部

#### 広報委員会

協会広報活動を積極的且つ広範囲に展開し、業界認知を促進とともに会員獲得に繋げる。

機関誌では、協会活動状況とその成果等、また技術情報・業界動向等を取り上げ、会員のみならず関連業界、教育機関等に向け情報提供とともに、ET・IoT 展、セミナー・地域イベント等で配布する等、協会広報を推進する。また、媒体活用・連携による協会広報を企画・展開する。

キャラクター「クミコ・ミライ」の利活用では、主催事業や地域イベント等でもその活躍機会を広げ、業界周知はもとより、学生や他業界へも判り易く伝えていく。併せて、利活用のための基盤整備を行う。

##### 1. 協会機関誌の定期発行

機関誌「Bulletin JASA」を定期発行する。 年 4 回

##### 2. 協会広報

- ①協会活動を紹介するための特別企画号を編集・発行し、内外に向けて広報展開する。
- ②協会パンフレットを制作し、入会案内並びに協会周知資料として活用する。

##### 3. 協会広報と業界知名度向上

- ①キャラクター「クミコ・ミライ」利活用推進とそのための基盤整備を行う。
- ②メディア・媒体等との連携、活用による協会活動周知を展開する。

##### 4. セミナー・イベント運営支援等

ET 事業本部並びに支部等との連携によるセミナー・イベントを運営する。

#### 国際委員会

##### 1. 委員会を定期的に開催する。

2ヶ月毎に委員会を開催し、事業の検討・計画・推進ならびに委員間の情報交換を行うと共に委員会としての課題を探るため、識者に依頼して、「委員会スピーチ」の機会を設ける。

##### 2. 会員企業に海外を実感していただくため、ニーズの高い国への視察ツアーを実施、

海外協会との交流や MOU 締結などを進めるために、海外協会への委員派遣を実施する。また、海外視察により現地を体感する、海外協会との交流を進める。

##### 3. 「JASA グローバルフォーラム」を計画・推進する。

JASA 会員をはじめとした企業に対し、海外の動向及び国際化推進に向けたセミナーを実施する。ET2017 開催の機会を利用した「JASA グローバルフォーラム」を計画・推進する。

##### 4. 「国際だより」の発信

会員企業に対する情報提供と JASA 外部に対する情宣活動への貢献のため、JASA ホームページ及び機関紙 Bulletin JASA に「JASA 国際だより」を設け、国際委員会から積極的に情報発信を行っていく。

##### 5. アンケートの実施

隔年毎に実施。

会員企業へのグローバル化調査を実施し、委員会事業の課題を探る。

## 協業推進委員会

### 1. IoT ビジネスセミナー

IoT の「事業性」に焦点をあてたセミナーを経営層向けに開催する。

#### ① 中四国地区

地域 ET/IT, IoT 産業界での JASA の認知を拡大し、地域における JASA のスタンスを確立する。  
なお、本施策は ET 事業本部と連携して開催する。

#### ② 関東地区

IoT の事業モデルを紹介する。IoT 事業推進のための、ET, IT 事業者のネットワーク醸成、マッチングを図る。

### 2. 九州地区セミナー

九州支部が出店する「ものづくりフェア 2017」の会場においてビジネスマッチングの土壤の形成を求める、セミナー、ネットワーキングパーティを開催する。

## 人材育成事業本部

## ETEC 企画委員会

### 1. ETEC クラス 2 改変作業

第 1 四半期目途で IoT 事業を意識し、ETSS の「通信」分野を出題範囲に広げる。

但し、受験者側の混乱を防ぐため、1・2年は正答率の評価のみとして、総スコア、グレード判定には組み込まない。

### 2. ETEC クラス 1 重版化作業

導入 2 年目になり、再受験者もふえだすことから、試験パターンの重版化を行う。

平成 29 年度は問題作成と校正を行い、平成 30 年にリリースを予定する。

### 3. 法人市場販促施策

#### ① 広報媒体作成

積極的に利用している企業に、利用方法、人事考課、教育指導の活用方法をヒアリングして、広報媒体を作成する。

会員向け周知と一般向けに媒体露出を行う。

#### ② 展示会広報活動

7 月の ET West 2017・IoT Technology West 2017、11 月の ET 2017・IoT Technology 2017 の JASA 展示ブースで体験受験イベントを開催する。

#### ③ i コンピテンシ・ディクショナリ連携

人材評価に使う「スキルディクショナリ」に ETEC クラス 2・クラス 1 をエントリーさせ、企業への活用を求める。

### 4. 学生市場販促施策

上記 3.② のイベントを学校法人に周知徹底し、認知度を広げる。

学割料金による「教員」のお試し受験を行う。

## 研修委員会

### 1. 教育機関向け情報発信

四半期に 1 回程度、BulletinJASA を中心に、組込みシステム開発業界の情報、教育情報を郵送し、教育機関側の情報をアップデートする。

約 230ヶ所に送付。

## 2. 就活・求人支援

### ① 業界研究セミナー

7月のET IoT Technology West 2017、11月のET IoT Technology 2017の機会を捉え、「業界研究セミナー」が学校・学生向けに開催する。

### ② 求人情報

会員の求人情報をJASAホームページに掲載し、学校等に情報アクセスを訴求する。

また、学校法人向けの媒体等の機会に、業界説明、求人情報を露出する。

## 3. 実践教育支援

高等教育における実践指導を訴求するため、教職員向け講座を開設する。

### ① C言語実践指導講座

夏季休暇期間を利用して、組込みシステム開発企業の実践教育を体感する。

### ② ET ロボコン指導講座

ET ロボコンの学校エントリーの障害となっている指導者層の育成を目的に、エントリー時期の春休み期間に行う。

## 4. 新卒求人像調査

企業が求める新卒人材のスキルレベル、人物像を会員に調査し、報告書を作成の上、学校法人・人材紹介機関に情報提供する。

## 5. 初等教育

初等教育現場に2020年導入が決まったICT教育事業への参画。

## キャリア活用委員会

### 1. 人材開発セミナー

組込みシステム開発職にむけた、50代の人材開発セミナーを準備するにあたり、高齢雇用が進んだ企業のケーススタディを平成28年度同様に継続する。

### 2. 職域創出・人材活用

iコンピテンシ・ディクショナリを会員に推奨する。

#### ① 説明会(第1四半期)

各支部のイベントタイミングを活用し、iコンピテンシ・ディクショナリの導入効果を説明し、ワークショップの参加を要請する。

#### ② ワークショップ(第2四半期)

iコンピテンシ・ディクショナリの「Silver」認定を目指し、企業向けのワークショップを開催する(2~3時間x6回)。

Silver認定2社を目指す。

#### ③ コミュニティ(下期)

ワークショップを終えた企業を対象にコミュニティを発足させ、継続利用ならびに、上位認定(Silver-Plus、Gold)を目指す啓蒙を行う。

### 3. 人材マッチング

B to B市場(企業間の人材リソース活用)のビジネスモデルを研究する。

具体的にはiコンピテンシ・ディクショナリの「スキルディクショナリ」を活用し、会員間の情報交流ステージを検討する。

## 技術本部

### 1. 技術本部会議

技術本部の活動を総括するため、本部会議を実施する。(隔月開催予定)

### 2. 技術本部成果発表会

各委員会の前年度の活動成果を、会員や一般向けに発表する。

### 3. 技術本部セミナー

ET2017 にて、年度の中間成果を中心に、オープンセミナーを開催する。

### 4. ET 展 JASA ブースでの活動

ポスターの展示やセミナー、アンケート調査を行う。

### 5. プロジェクト支援及び外部連携の強化

技術本部を横断するプロジェクトへの支援を行うと共に、外部団体との連携を強化していく。

### 6. 先行技術課題への取り組み

AI、IoT 等先行技術課題に取り組む。

## 安全性向上委員会

### 1. 機能安全、情報セキュリティ、生活支援ロボットの安全性に関して、技術動向の調査・研究を行う。

年度計画の策定、推進、討議。対外組織との連携を企画する。

- ・定例会(月一回)を開催し、各WGの活動報告から情報共有、意見交換を行い、SSQに関する見識や技術力の向上を図る。
- ・IPAその他の技術動向のウォッチ、相互紹介を進めビジネス機会の提供を図る。
- ・STAMP/STPA の深堀、レジリエンスエンジニアリング、FRAM 等最新技術の調査研究を行う。
- ・テーマ別に3WGに分かれて調査・研究と外部連携を推進する。

#### ①安全仕様化WG(SSQ-WG)

SSQの課題検討、特に上流工程の課題を検討する。

- ・前年度に引き続き、安全が関わる要求を仕様化するプロセスを研究し、プロセスモデル又は手法を提案する。
- ・安全誘導型設計プロセスモデルを重点課題とし、自主的に活動し、相互啓発を図る。
- ・手法として、意図・要求記述手法や、形式検証手法、安全解析手法に取組む。
- ・会合は委員会などと同日で進める。

#### ②ロボット安全 WG (RDSS-WG)

生活支援ロボットの安全規格に関するアドバイザーを目指す。

- ・ハザード分析(ISO13482 ベース)の簡易ツール改良版開発。
- ・IPAと兼本先生をアドバイザーに、SSQ-WG とも連携して、STAMP/STPA 勉強会を継続する。
- ・首都大学東京の MINAMO と IPX のロボットを題材に STAMP を試みる。
- ・会合は、首都大学東京武居先生とスケジュールを調整しつつ年 10 回程度で計画する。
- ・昨年に続き、STAMP ワークショップ等への外部発信を行う。

#### ③情報セキュリティ WG (JESEC-WG)

中小企業の情報セキュリティ強化に資する

- ・①CMSiS 改善のための研究一レイヤーの研究。CMSiS 普及推進委員会へのフィードバック。
- ・②セキュリティ設計に着眼した調査・研究を行う。B3C(ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ)、情報セキュリティ大学院大学との連携

- ・①、②は、分科会形式で、主査を個別に任命し会合は同日実施。対外活動は個別に行う。
- ・①、②ともに成果物を外部に発表する。
- ・会合は、都立産技研を原則として年 10 回程度で計画する。JASA 以外への外部発表を年最低二回行う。

## 2. 外部連携・親睦企画

集中討議と委員及び外部専門家との交流を推進する。

- ・本委員会に関連するホットな話題について外部から講師を招聘し最新技術情報を収集するとともに外部との交流の中からオープンイノベーションの機会を増やしていく。
- ・合宿を 9 月（案）に計画する。IPA や連携大学との合同合宿形式も検討する。

## 3. 外部発表

委員会活動をアピールし、社会啓発に資する。

- ・技術本部成果発表会（5 月） ; JASA 会員向け報告
- ・ETWEST（7 月）、ET2017 技術本部セミナー（11 月） ; 一般向け啓発
- ・地域交流（出張）。
- ・IPA と連携し、STAMP/STPA ワークショップや IPA セミナー等での発表。
- ・産技研、警視庁と連携し情報セキュリティ啓発。

## IoT技術高度化委員会

クラウドや IT 産業の視点で語られがちな IoT や M2M を、エッジ側（組み込み産業、製造業）の観点で見直し、その構成/サービス/拡張性/検証性/保守性などの検討を行い、情報発信する。

そのため、有識者を招いた勉強会や企業のサービス事例を題材にした「白熱教室」を定期開催する。

H29 年度は、各 WG にて具体的なテーマに応じた WorkShop を開催し、共創をベースにした、IoT サービスのプロトタイプシステムを構築する。

### 1. IoT技術研究会定例会議

活動計画、進捗状況の確認

- ・年6回程度の開催。（JASA会議室）他
- ・有識者を招いた講演&勉強会。
- ・各種IoT団体との連携。

### 2. 各WGの定例会議

ワークショップ形式の検討会

- ・年6回程度の開催。（JASA会議室）他
- ・WGテーマに応じ学識者の顧問依頼

①ビジネス環境 WG（予定）=センシングデータのマッチングシステム

#### ②ドローン WG

ドローンのサービス検討と試作

- ・ドローンセンシングのプロトタイプシステム検討
- ・各種ドローンの試作
- ・ドローンの衝突回避・安全機能の標準搭載プラットフォームを作成
- ・会員のドローン事業参入への技術展開を図る

#### ③エモーション WG

エモーションのサービス検討と試作（会話型ロボット）

- ・AI とコミュニケーション ROBOT の連携試作
- ・オープンソースベースのアーキテクチャで実現の可能性を検証
- ・事業化（学習済 AI 搭載）に向けたプラットフォーム提供を行う

④分散型モデルベース開発WG  
SMA の研究会にて対応

3. ET-WEST2017  
ET-WEST2017への出展  
・セミナーの実施  
・パネル展示、配布資料  
・説明員の派遣(2名)

4. ET2017への出展  
・セミナーの実施  
・パネル展示、配布資料  
・説明員の派遣(2名)

---

## 応用技術調査委員会

---

### OSS 活用 WG

---

1. オープンソース・ソフトウェア(OSS)の普及活動、OSS ライセンスの啓蒙活動
2. ロボット、ドローン、自動運転用 OSS、特に、OpenEL, OpenRTM(日本の産総研発のロボット・ミドルウェア), Autoware の普及活動
3. OSS の品質についての様々は指標について議論、実証を行う

①WG 定例会議  
活動計画、進捗状況の確認  
各月、年 6 回の開催。

②WG 勉強会  
ゲスト・スピーカーを招き、最新の知見を学ぶ  
スピーカーを都内、または遠方より招く。遠方の方は、年に、最大 3 人程度

③外部発表  
WG の活動をアピールする。  
1. 技術本部成果発表会(5 月) ;JASA 会員向け報告  
2. ET2017 技術本部セミナー(11 月) ;一般向け啓発

④OSSC 共同セミナー  
外部より講師を招き、最新の情報を、一般に知らしめるセミナーを主催し、WG の活動をアピールする。  
時期は通年で、年に 3 回程度実施。

⑤広報資料作成  
WG の活動をアピールする。  
フライヤ(チラシ)、ステッカ、印刷物などを作成

⑥OSS 品質検証の実験  
既存 OSS の品質をどう検証すればいいかが、問題になっている。2016 年度に引き続き、fuzz テストなどを既存 OSS に対して実施してみて、具体的に品質検証が行えるか、また、そのコストを実験する。

## 状態遷移設計研究 WG

1. 状態遷移設計の普及啓蒙活動
2. 「状態遷移表のリバースモデリングへの適用」
  - ・既存ソースコードから、状態遷移表を逆生成する手法の研究、ツール化。
  - ・ツールの多言語対応化
  - ・セミナー、講演会などの広報活動を含む論文作成 他
- ①状態遷移設計研究会定例会議  
活動計画、進捗状況の確認  
・毎月、年12回の開催。(JASA会議室)
- ②enPIT/emb への参画、共同研究費  
ツール化の产学連携推進  
・既存ソースコードから、状態遷移表を逆生成する手法の研究、ツール化。
- ・ツールの多言語対応化  
・セミナー、講演会などの広報活動を含む論文作成 他
- ③enPIT/emb の進捗状況確認、定例会議  
・月例会議、プロジェクトの進捗確認。(名古屋大)
- ④ET-WEST2017への出展  
・セミナーの実施  
・パネル展示、配布資料  
・説明員の派遣(2名)
- ⑤ET2017への出展  
・セミナーの実施  
・パネル展示、配布資料  
・説明員の派遣(2名)
- ⑥合宿の実施
- ⑦PR 動画作成

## プラットフォーム WG

1. OpenEL 普及促進活動  
OpenEL の普及促進活動として、OpenEL を活用したプラットフォームロボットの実証実験を行う。
  - ①OpenEL 対応デバイスの実装評価。
  - ②実証対象として生活支援ロボットを選択し、その超小型化への対応可否の実証。
  - ③各委員会や WG との共同研究媒体として活用。
2. 技術動向調査  
生活支援ロボット等の技術動向を調査し、ビジネス化を視野に入れた検証を行うと共に行政や会員企業に情報提供を行う。
3. 研究成果の外部発表  
研究成果の外部発表として展示会で OpenEL ロボットの展示を行う。
  1. 技術本部成果発表会(5月)
  2. ET West2017/ET2017 技術本部セミナー(7, 11月)
  3. ものづくりフェア(10月)

#### 4. 合宿

2017年度活動内容の集中討議を行うと共に委員間の交流を図る  
TJK 箱根の森を利用する

### ハードウェア委員会

組込み業界を取り巻くビジネス環境はこの20年で大きく変わり、また今現在もIoTによって大きく変わってきた。これからの中小企業のハードウェア技術者はいかにあるべきかを主眼に置いて次のテーマの活動をする。

- ①UXに着目した共創開発ものづくりについて
- ②IoTに於けるセンサーの活用について…ロボット

#### 1. 委員会開催

年10回を目処に全体会議を開き進捗を管理する。都度チームに分かれて課題を持ち帰り、活動した内容を報告して皆で検討する。

#### 2. ワークショップの開催

共創開発を体験して技術者育成の考察に加える。

2016年度の継続と深掘り。

講師を招いてUXについて技術セミナーを行い、講演後に各々テーマを決めてワークショップを行い実際に手を動かす。最後に発表して振返る。

#### 3. 研究開発(センサー・回路基板)

ハードウェア委員会はIoT活動する切り口としてセンサーに着目しているが、そのベースとしてプラットフォーム研究会で開発し研究を継続してロボットを採用し共創する。

#### 4. JPCA Show 出展

JPCA2017をハードウェア委員会の広報活動の発表の場として活用すると共に業界ニーズを調査して委員会に報告する。

### ET事業本部

運営組織強化と関連委員会等との連携により、組込み技術とIoT技術の総合展示会&カンファレンスを企画・運営し、業界並びに協会諸事業を牽引・推進する。

ET・IoT Technologyでは、技術・市場動向等を見据えビジネスに繋がる情報を発信する。

組込み技術とつながる技術をベースとして、既存分野のみならず様々な産業分野に向けたアプローチ、プロモーションを展開し、規模・内容の拡充を図るとともに、特設パビリオンや企画テーマゾーンを新設する等、アプリケーションやソリューションが判りやすい展示構成とカンファレンス構築を進める。

またオープンイノベーション推進事業の一環として、技術シーズやビジネスモデル等を対象としたパートナー連携促進イベントを企画・運営する。

Westでは、新体制の下、関西の特色をも活かし、ものづくりにおける最新の組込み技術とIoT技術を情報発信するとともに、産学連携推進、ビジネス交流機会を広げる。

ET並びに協会事業の一環として、地方・地域展開を進め、技術普及高度化を促進するとともに、ET事業プロモーション及び今後の協会活動展開にも繋げていく。併せて、海外展開に向けて、海外団体との連携によるイベント等の企画・実施、相互事業協力による事業の拡大とアライアンス促進を図る。また、事業拡充とプロモーション強化を図るため、新たなメディア連携イベントも企画する。

## 1. 「ET・IoT Technology 2017」の開催／ET 実行委員会

組込み応用技術、IoT 技術等の普及高度化促進とビジネスに繋がるイベントとして企画・運営する。事業領域の拡大と新規プレーヤーの獲得を図り、また、カテゴリーを設け、展示ゾーン・パビリオンの新設とカンファレンスを開催する。

- ①組込み AI 活用 ②セーフティ&セキュリティ ③無線通信技術 ④スマートセンシング

### ＜ET・IoT Technology 2017／ET・IoT 総合技術展＞

会期:2017 年 11 月 15 日(水)～17 日(金) 10:00～17:00

会場:パシフィコ横浜 展示ホール、ANNEX ホール、会議センター

展示規模:420 社、840 小間想定

来場者数:27,000 名見込

カンファレンス:110 セッション予定

併催イベント:ET/IoT アワード、ET ロボコンチャンピオンシップ大会、組込み IoT ハッカソン  
JASA セミナー、グローバルフォーラム、技術本部セミナー他

## 2. 「ET West・IoT Technology West 2017」の開催／ET West 実行委員会

関西・西日本における組込み・IoT 総合技術展＆カンファレンスとして企画・運営する。

### ＜ET West・IoT Technology West 2017／ET・IoT 総合技術展 関西＞

会期:2017 年 7 月 12 日(水)、13 日(木) 10:00～17:00

会場:グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター、タワーC カンファレンスルーム

展示規模:120 社、190 小間想定

来場者数:7,000 名見込

カンファレンス:50 セッション予定

## 3. 地方展開、海外展開

技術普及高度化促進、協会活動周知と今後の展開に繋がる地方開催イベントを企画・運営する。

また、ET 事業の海外展開及びプロモーション、海外セミナーの実施、相互事業協力によるイベント開催等を開催する。

## ET ロボコン実行委員会

ET ロボコンは 2017 年度で 16 年目を迎え、若年層への実践教育の場として、また就活の要素も含め、定着している。

### 1. 競技内容

本年度からイノベーター部門をガレッジニア部門として進化させる。

- ① デベロッパー部門(プライマリー・クラス)

初心者・初級者向けクラス

モデリング未経験者・初級者を対象とする(連続出場も 3 回まで)

モデル審査と競技で競う。地区大会選出チームがチャンピオンシップ大会に望む。

- ② デベロッパー部門(アドバンスト・クラス)

プライマリークラス経験者、応用学習者向けクラス

課題解決のためにモデルを使い、モデリング開発の応用編を実践する。

カラーセンサを活用し、モデル審査と、競技で競う。  
地区大会選出チームがチャンピオンシップ大会に望む。

③ ガレッジニア部門

新しい技術へチャレンジする参加者に対して、新しい技術領域へスタートする機会を提供する。  
例:技術先行(シーズ)型、問題解決型 等  
地区大会による審査に代わり、動画による審査を経て、チャンピオンシップ大会へ進む。

2. エントリー

2月21日にETロボコン2017開催の記者発表を行った。その後、2月25日～3月25日にかけて12地区19ヶ所で説明会を開催した。  
4月6日(木)までエントリーを受け付けている。

3. 技術教育

ETロボコンエントリーチームに向けた公式トレーニングを開催する。  
走行体を動かすのに必要な開発環境・要素技術の知識を得て、モデルとコードの対応付けや要素技術をモデルに取り込む方法を学び、機能を組み合わせてシステムを開発する方法を学ぶ。

① 基本教育

5月から7月上旬にかけて12地区16ヶ所で開催する。

② 補完教育

エントリーチームのレベルによっては地区の判断で補完教育を実施する予定する。

4. 試走会

チューニングのヒントなどをつかむため、地区大会前に、本番コースによる試走機会を各地区2回予定する。

5. 地区大会

2017年度は曆の都合で、7会場日程が9月16～18日に集中する。

地区	予定日	予定会場
北海道	9月17日(日)	公立はこだて未来大学
東北	9月18日(祝)	岩手県民情報交流センター
北関東	10月1日(日)	アオーレ長岡
東京	9月2日(土)、3日(日)	早稲田大学(西早稲田キャンパス)
南関東	9月16日(土)、17日(日)	調整中
東海	9月16日(土)、17日(日)	愛知工業大学(八草キャンパス)
北陸	9月17日(日)	金沢工業大学(扇が丘キャンパス)
関西	9月17日(日)、18日(祝)	京都コンピュータ学院
中四国	9月17日(日)	福山大学(宮地茂記念館)
九州北	9月24日(日)	九州産業大学
九州南	9月30日(土)	都城コアカレッジ
沖縄	9月30日(土)	沖縄産業支援センター

6. チャンピオンシップ大会(11月)

開催日時:11月15日(水)

開催場所:パシフィコ横浜

## プラグフェスト実行委員会

共通のインターフェース規格を持つ機器間の相互運用性を検証するイベントで、H29年度も春季と秋季の実施予定。

1. 日本プラグフェスト 春季  
HDMI 規格にて接続試験を実施
2. 日本プラグフェスト秋季  
HDMI 規格にて接続試験を実施
3. WG ミーティング  
実施計画策定のミーティングを実施

## Open EL 国際標準化委員会

1. OpenEL 国際標準化委員会活動  
委員会を定期的(月 1 回程度)に開催する。  
5 月以降、「OpenEL 国際標準化委員会」を開催し、現在策定中の国際規格の仕様について協議・決定を行う。  
各種学会等に出席し、日本国内のロボット研究者・開発者との意見交換を行う。  
(5 月ロボティクス・メカトロニクス講演会(福島)、9 月日本ロボット学会学術講演会(東京)、12 月計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2017、仙台))
2. OMG 標準化活動  
アメリカの標準化団体 OMG で「HAL4RT」として標準化を進めている OpenEL の国際標準化を進める。  
OMG 国際会議(6 月ベルギー、9 月アメリカ、12 月アメリカ)に参加し、OpenEL の標準化作業を推進する。
3. 国際標準化活動  
ISO/TC299/WG6 で OpenEL の国際標準化を進める。  
ISO 国際会議(7 月ハンガリー、10 月中国、2 月未定)に参加し、OpenEL の標準化作業を推進する。
4. 調査研究  
OMG HAL4RT1.0 文書および 2.0RFC 文書作成を目的として Platform Independent Model 仕様案および Platform Specific Model 仕様案作成のための調査研究を外注する
5. 事務局運営  
「OpenEL 国際標準化委員会」事務局を運営する。

### 今後の予定

- ・2017 年 6 月 5 日(月)～9 日(金):OMG 技術会議(ベルギー、ブリュッセル)
- ・2017 年 7 月 19 日(水)～21 日(金):ISO/TC299/WG6 会議(ハンガリー、ブタペスト)
- ・2017 年 9 月 25 日(月)～29 日(金):OMG 技術会議(米ルイジアナ州ニューオーリンズ)
- ・2017 年 10 月 12 日(木)～14 日(土):ISO/TC299/WG6 会議(中国、蘇州市)
- ・2017 年 12 月 4 日(月)～8 日(金):OMG 技術会議(米カリフォルニア州バーリングーム)
- ・2018 年 1 月 24 日(水)～26 日(金):ISO/TC299/WG6 会議(イギリス、ケンブリッジ)

## CMSiS 普及推進委員会

- ① 年度内に少なくとも 4 組織への導入を実現
- ② そのために、主催及び協力組織との共催のセミナーを、主催については4回、共催については2回実施する。
- ③ 制度そのものをよりわかりやすい、とりつきやすいものにするため、内容を大幅に改訂する。またセミナーをより効果的にするため、開催の都度、アップデートされた資料を用意する。その内容は年少なくとも4回発行する紹介小冊子に反映させる。
- ④セキュリティツールベンダーとのコラボを通じ推進を加速させると同時に、一定の収入を確保する。
- ⑤公的関係機関(産技研、警視庁等)との関係をより緊密なものにし、普及・推進を加速させる。

### III. 支部活動計画

#### 北海道支部

JASAの活動を紹介し、認知度の向上および会員増強に努める。

#### 東北支部

東北支部では、地域産業活性化へ貢献することを目指し、会員及び東北地域の他団体・教育・研究機関との交流・協業をさらに推進し、よきマッチングが実るよう東北支部会員の増加や活性化につなげる。

##### 1. 支部会議

東北支部事業の事業進捗状況進捗確認

支部会議を年4回(仙台、山形、横浜、盛岡)行う、オープンセミナー同時開催(除く横浜)、同時に懇親会を行い、より多くの会員の出席と、交流を行う

##### 2. オープンセミナー

組込みシステム関連業界・技術動向の普及展開についてセミナー、及び懇親会を開催し地域の企業、団体、行政等との交流促進を行いJASAの知名度向上、JASAへの加入促進を図る。

##### 3. 人材育成セミナー

組込みシステム業界のヒューマンスキルの育成

各県教育機関と連携し会員各社に展開する。(事務局対応)

##### 4. 国内見学会

国内の研究施設、工場などを観察し、参加者の事業発展に貢献する。

##### 5. ET2017 東北地域支援

ET2017 東北地域出展企業の活動支援

ET2017「TOHOKU パビリオン」に出展する東北地域企業の出展支援、及び「TOHOKU パビリオン」の運営活動を支援する。

##### 6. ET ロボコン東北大会支援

ETロボコン東北大会の企画運営を支援し、東北大会の更なる活性化を図る。JASA東北支部の参加者(学生等)への知名度向上による採用支援

##### 7. 東北支部会員ビジネスマッチング・関連団体連携支援

域内外でのビジネスマッチング活動、システム関係団体と連携し会員企業への事業活動に貢献する。(事務局対応)

#### 関東支部

『ビジネスを創る/育てる公器となる』をビジョンに、以下の活動に注力する。

- ①政府/自治体情報の発信
- ②会員企業のビジネス機会創出
- ③会員企業の人材育成支援

##### 1. 企画運営 WG

支部活動の企画運営委員会の実施。

## 2. 支部例会

### ①支部例会(5月)

平成29年度の関東支部事業計画の発表とセミナー開催及び関東支部会員の交流会を実施する。

### ②支部例会(8月)(講演会・納涼会)

セミナー開催及び、新入会員企業等による紹介プレゼンを実施したのち、交流会を開催する。

### ③支部例会(12月)(講演会・忘年会)

次年度事業計画についての説明を実施。セミナー開催及び、新入会員企業等による紹介プレゼンを実施したのち、交流会を開催する。

### ④支部会議(2月)

次年度事業計画承認についての会議を実施。

セミナー開催及び、新入会員企業による紹介プレゼンを実施したのち、交流会を開催する。

## 3. フレッシャーズセミナー

会員企業をはじめとした組込みシステム企業を対象とした新人研修セミナー(一般教養と組込み関連)を実施する。

## 4. 人材育成セミナー関連

### ①各種セミナーの実施(2回)

新事業創造、リーダーシップ、接遇など コンピタンシー向上の為のセミナーを実施する

### ②次世代人財の育成

新規事業推進のため、開発した製品/サービスを どのようにプロモーション、販売するかマーケティング、セールスを中心に学ぶ機会を設ける。

## 5. 異業種交流会

各種企画を通じて会員企業、関連団体、異業種間との交流の機会を創る

## 6. 企業等見学会

組込みシステムに関する最先端技術を見学し、また、会員間の交流の場を提供する。

## 7. JASA 会員間情報共有メーリングリスト

JASA 会員間及び JASA 関東支部事務局からの情報提供を目的とする

## 8. JASA 活

JASA 会員企業の若手メンバーの交流機会

・会員企業の会社紹介、製品紹介

・会員企業同士の情報交換(採用関連も含めて)

・商談(協業の打ち合わせ)

## 9. JASA ハッカソン

テーマを設定し、チームで集中して一日から複数日で成果物を作成し、発表する。

## 中部支部

産業の基幹技術でありモノづくりの根幹を荷っている組込みシステム技術も繋がる世界に視点を置いた技術開発が求められる時代になってきている。当地域の得意分野の車載関連、FA 機器産業に蓄積されている技術とノウハウと IoT の時代に合った技術知見が必要となり、地元大学との連携を一層図っていく必要がある。当支部では、会員相互の交流・啓発及び、他地域との連携により、地域産業経済の発展に資するため下記の事業を積極的に推進する。

## 1. 国内外産業調査(春と秋の年2回)

・東南アジアの情報産業の実情とともに協業の可能性を調査するとともに中堅管理者の海外経験を積むことを目的

- ・中部地域以外の地域の産業活動状況を調査するとともに協業会議を行い、ビジネスの可能性などを調査する

## 2. 技術研究会

組込みシステム開発にアジャイル手法を導入する研究

平成24年度より始まったアジャイル研究会を続けて行う。組込みシステムの開発にアジャイル開発手法を適用する場合障害となる条件について技術的及び管理的観点から研究する。今年度は各社で実施した試行等を纏め、会員に有用なガイドラインをまとめるとともに、試行も増やす。

## 3. 技術セミナー 3回 マネージメントセミナ 1回

- ・地元大学・企業から先進的な指導者を招聘して年3回セミナー
- ・講演会を開催し組込みシステム技術の普及・啓発を図る。
- ・管理技術向上をめざし、地元大学の先生にマネージメント技術の啓もうを図る。セミナー後に交流会を開催し講師や参加者とのネットワーキングを行う

## 4. セキュリティ勉強会、他勉強会

組込みシステムにおけるセキュリティ技術の啓蒙

その他新技術勉強会

IoTの時代、組込みシステムにもセキュリティ技術が必要となる。中部経産局さんと共にセミナを実施するとともに、セキュリティはどこまで対応すればよいかを地元大学の研究者を講師に招き解説をしていただき、手順等を習得する勉強会を設定する。その他新技術も実施する。

## 5. 企業拡充活動

中部地区の会員以外の企業を訪問し、情報交換を行い、協業などの機会を作るとともに会員の増強をおこなう。

## 6. 企業訪問

中部地区の新入会員企業、非会員企業や大学を訪問し、情報交換を行い、協業などの機会を作る

## 7. 支部会議及び支部会員企業交流会

平成29年度度事業について議論し、会員の参加、協力を得るようにする。キックオフを兼ねて懇親会と講演などの行事も会議後開催する。

## 北陸支部

北陸支部としては、本部事業への参加を積極的に推進するとともに、支部独自の事業を推進して組込み技術の普及・促進を図る中で会員増強、人材育成、会員間交流を活性化していく。

特に平成29年度は、小学生を対象としたロボコンを開催し、2020年度からの小学校でのプログラミングの必修化に係る学習のインセンティブを与えるとともに、こどもの頃から組込みシステム技術基盤の構築を図る。

## 1. 支部会議

支部の今期事業計画を確認する。

事業計画の策定・報告、予算策定・決算報告及び29年度事業のスケジュール等の調整を行う。会議終了後、会員相互の情報交換及び交流会を実施する。

## 2. 視察研修

海外の組込みシステム業界の現状と組込みシステム技術の開発状況等を視察・調査するとともに、現地企業との交流会により情報交換を行い、協業等ビジネスの可能性を探る。

## 3. ロボコンの開催

次代の組込みシステム業界を担う人材の発掘・育成を図る。

(一社)福井県情報システム工業会との共催により、小学生を対象とした「越前かにロボコン」を開催し、自立型ロボットを製作・自動制御させることにより、科学技術を身近に体験する機会を提供する。

## 近畿支部

今年度も支部会議、各種セミナー、視察、若手技術者のスキルアップ事業、会員相互の懇親会など、精力的に計画しております。特に、重点事業として「交流祭典」と「日本プラグフェスト」の更なる充実と、若手経営者の交流を含めた研究会の立ち上げを計画しております。

### 1. 平成 29 年支部会議、懇親会

4 月には前年度活動報告及び決算報告、新年度の活動計画及び予算を確認する。5 月、7 月、9 月、11 月、2 月には各ワーキンググループの活動報告、案内及び支部事業計画に基づいた具体案の検討を行う。

### 2. 総務、市場セミナー

5 月に営業担当社員を対象とした市場セミナーを、10 月には交流祭典と同日に総務・市場の合同セミナーを、2 月には各方面から講師を招聘し、総務・管理担当社員を対象とした総務セミナーを実施し、スキルアップ、情報収集に役立てる。

### 3. 技術セミナー

8 月、10 月、1 月の 3 回、組込みシステムに関する先端の技術についてセミナーを実施し、技術担当社員の技術啓発や人材育成を行う。講師の支払報酬を負担し、企業内ではできない研修の場を提供する。

### 4. 研究会

6 月、8 月、10 月、2 月の 4 回、講師を招いてのセミナーや意見交換等、若手経営者のための研究会を実施する。7 月、9 月、11 月、3 月には若手技術者のための研究会を実施する。

### 5. 観察研修

海外の技術の実態調査を行い、組込みシステム技術の普及啓発に寄与する。(海外観察)/観察地における組込みシステム技術の調査、地域の経済情勢を観察する。また他支部との交流を図る。(国内観察)。行き先、時期は海外、国内ともに未定。

### 6. 日本プラグフェスト、SWEST、交流祭典

5 月に京都で開催される日本プラグフェストの見学と及び懇親会に参加し参加者と支部会員との交流を図る。(日本プラグフェスト)/8 月に行われる SWEST の参加者を募集し、会員企業社員のスキルアップ、技術啓発に役立てる。(SWEST)/市場、技術、総務各ワーキンググループ合同の懇親会とし、さらに学生に業界、協会を知ってもらう機会とする。(交流祭典)

### 7. 会員交流懇親会

7 月の支部会議終了後、交流懇親会を実施する。11 月の支部会議終了後、1 年間の支部活動を振り返り、忘年会を行う。1 月に他団体の会員及び地域の行政、諸団体メンバーと交流する。

### 8. 企画活動

他団体(関西情報センター、ハイテクノロジーソフトウェア開発協同組合、Ruby ビジネス推進協議会、京都コンピュータシステム事業協同組合、組込みシステム産業振興機構等)の活動に参加し、開催イベントの協賛を行い、地域の活性化に寄与する。

## 九州支部

本年度も昨年度に引き続き、九州地区最大の業界展示会「ものづくりフェア2017」で、ブース出展、同時開催セミナー、セミナー懇親会、ET ロボコンイベントを実施する。「ものづくりフェア2017」において総合的に JASA をアピールすることによって九州地区でのプレゼンスの向上と新規会員獲得を目指す。また、本部事業のET2017、地区関連団体との協賛・支援を通じて、組込みシステム技術の普及・向上、ビジネス機会の拡大、地区関連団体との交流及び地域連携を推進する。

### 【事業計画】

#### 1. 支部会議

支部事業について報告及び検討・調整を行う。また、会員間の情報交換・交流を図る。

開催日程:5月、8月、11月、2月(四半期毎に年4回実施予定)

#### 2. ET2017事業

本部事業のET2017事業を活用して組込みシステム技術の普及・高度化、ビジネス機会拡大を図る。

開催日程:「ET-WEST2017」および「ET2017」

#### 3. モノづくりフェア2017ブース出展

「モノづくりフェア2017」の展示会にブース出展し、九州地区でのプレゼンス向上と、新規会員獲得を目指す。」

開催日程:10月18日(水)～20日(金) @マリンメッセ福岡

主催:日刊工業新聞社

#### 4. モノづくりフェア2017セミナー開催

九州地区に有益なセミナーを開催し、JASA非会員と交流する。

「モノづくりフェア2017」会場内で協業推進委員会と連携して実施する。

開催日程:10月19日(木) 15:00～17:00予定 @マリンメッセ福岡

## 組織変更について（案）

現在の組織構成

ET事業本部  
ET実行委員会  
EtWest実行委員会

人材育成事業本部  
TEC企画委員会  
クラス 1 問題作成WG  
クラス 2 問題作成WG  
ETロボコン実行委員会  
地区実行委員会  
研修委員会

キャリア活用委員会

技術本部  
安全性向上委員会  
安全仕様化WG  
ロボット安全研究会  
情報セキュリティ研究会  
技術高度化委員会  
OSS活用WG  
状態遷移設計研究会  
IoT技術研究会

応用技術調査委員会  
**技術セミナーWG**  
プラットフォーム研究会

ハードウェア委員会  
ものづくり技術者育成WG  
新技術調査研究WG

事業推進本部  
国際委員会  
協業推進委員会  
**IoTビジネス研究会**  
広報委員会

プラグフェスト実行委員会  
OpenEL国際標準化委員会  
CMSiS普及推進委員会

H29年度の組織構成

ET事業本部  
ET実行委員会  
EtWest実行委員会  
**ETロボコン企画委員会**

人材育成事業本部  
TEC企画委員会  
クラス 1 問題作成WG  
クラス 2 問題作成WG  
研修委員会

キャリア活用委員会

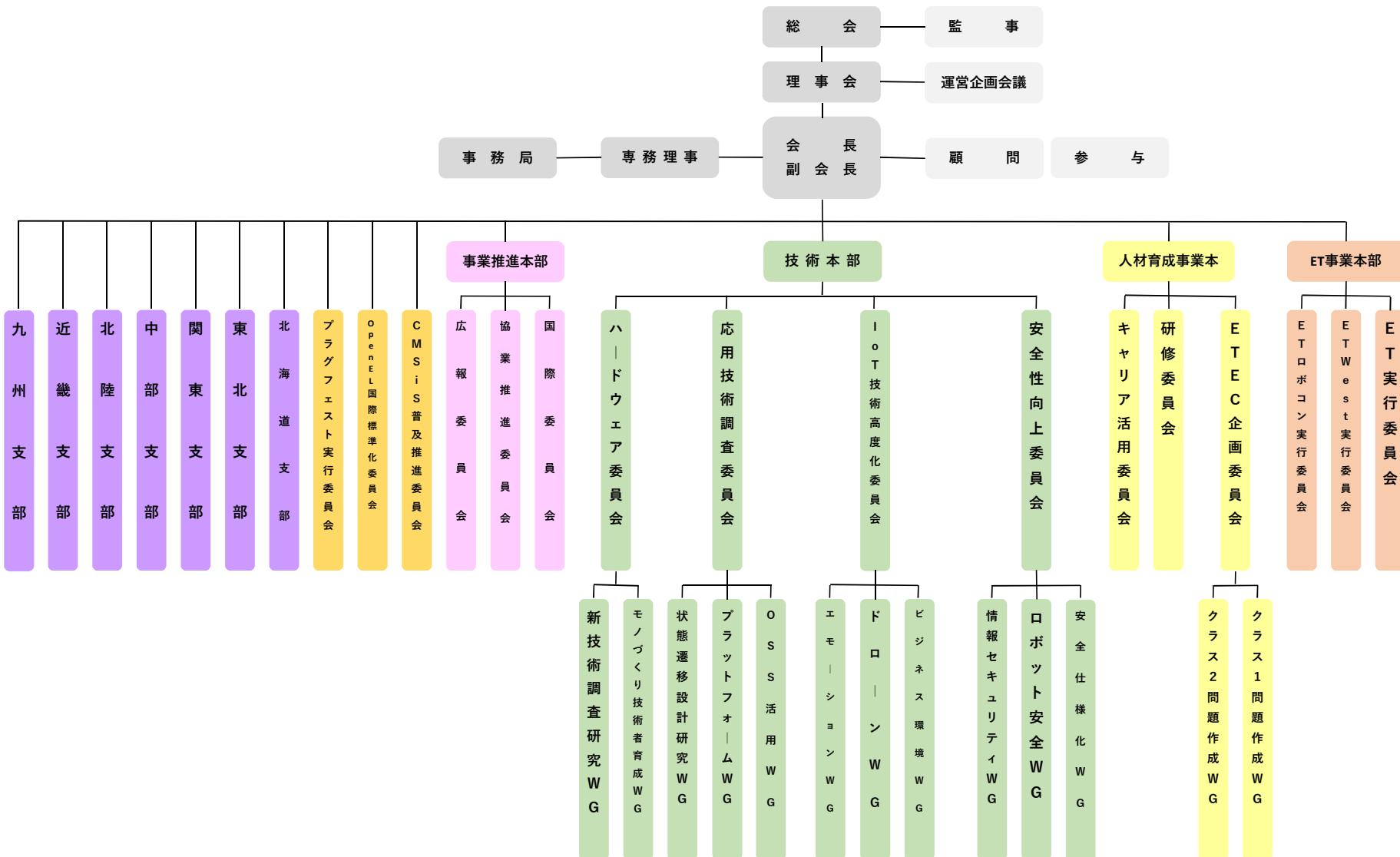
技術本部  
安全性向上委員会  
安全仕様化WG  
ロボット安全研究会  
情報セキュリティ研究会  
**IoT技術高度化委員会**  
ビジネス環境WG  
ドローンWG  
エモーションWG  
**(エネルギーハーベスティングWG)**

応用技術調査委員会  
**OSS活用WG**  
プラットフォーム研究会  
**状態遷移設計研究会**  
ハードウェア委員会  
ものづくり技術者育成WG  
新技術調査研究WG

事業推進本部  
国際委員会  
協業推進委員会  
広報委員会

プラグフェスト実行委員会  
OpenEL国際標準化委員会  
CMSiS普及推進委員会

# 組織圖



# 平成 29 度予算書

---

## 平成 29 年度 予算書

自 平成 29 年 4 月 1 日  
至 平成 30 年 3 月 31 日

一般社団法人組込みシステム技術協会

# 平成 29 年度予算

---

## 予算概要

平成 29 年度も大幅な赤字予算となっている。収入は予算比 176 万円減であり、支出は予算比 126 万円の減で、収支は予算比 50 万円減し、最終収支は 976 万円の赤字となる。

各事業本部、支部の予算では当初 1667 万円の赤字であったため、各予算担当者に収支の見直しを行ってもらったが、残念ながら 691 万円の削減しかできなかった。

ただし、昨年と同様の予算執行率であれば、平成 28 年度同様に 100 万円ほどの黒字が予想される。

## 1. 収入

### 予算比

会費収入は平成 28 年度予算と同様にした。事業収益では普及啓発事業収益は 342 万円増、その他事業収益は 510 万円減で、差引合計で 175 万円の減である。

### 見込比

会費収入で 461 万円増、事業収益で 1414 万円の増、寄付金で 336 万円減、差引合計で 1492 万円増となっている。

## 2. 支出

### 事業予算

#### 予算比

旅費交通費で 627 万円増、支払報酬で 239 万円増、広報費で 289 万円増、出向料で 109 万円減、印刷製本で 79 万円減、会合費で 408 万円減、業務委託費で 470 万円減、差引合計で 162 万円増となっている。

#### 見込比

会議費で 236 万円増、旅費交通費で 903 万円増、支払報酬で 398 万円増、会合費で 312 万円増、業務委託費で 415 万円増、広報費で 296 万円増、差引合計で 2799 万円増となっている。

### 管理費

#### 予算比

雑費で 240 万円増、役員報酬・給与手当で 570 万円減、差引合計で 288 万円減となっている。

#### 見込比

会議費で 63 万円増、租税公課で 84 万円増、雑費で 201 万円増、役員報酬・給与手当で 570 万円減、支払報酬で 51 万円減、差引合計で 213 万円減となっている。

## 正味予算管理月報（税込）

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

一般社団法人 組込みシステム技術協会

内訳書 全体

科 目	H28年度予算額	H29年度予算額	差 異	率	説 明
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
特定資産運用益	5,000		0	0%	
特定資産受利息	5,000		0	0%	
受 取 会 費	50,200,000	50,200,000	0	100%	
正会員受取会費	45,000,000	45,000,000	0	100%	
賛助会員受取会費	5,200,000	5,200,000	0	100%	
事 業 収 益	171,703,541	170,038,500	-1,665,041	99%	
普及啓発事業収益	126,312,000	129,740,000	3,428,000	103%	ロボコン収入のみ
その他事業収益	45,391,541	40,298,500	-5,093,041	89%	
受 取 寄 付 金		0	0	0%	
受 取 寄 付 金		0	0	0%	
雜 収 益	410,705	320,000	-90,705	78%	
受 取 利 息	400,000	300,000	-100,000	75%	定期預金
雜 収 益	10,705	20,000	9,295	187%	印税
<b>経常収益計</b>	<b>222,319,246</b>	<b>220,558,500</b>	<b>-1,765,746</b>	<b>99%</b>	
(2) 経常費用					
科 目	H28年度予算額	H29年度予算額	差 異	率	説 明
事 業 費	130,963,039	132,592,883	1,629,844	101%	
給 与 手 当		0	0	0%	
アルバイト料		200,000	200,000	0%	
出 会 費	1,999,944	900,000	-1,099,944	45%	
会 議 費	4,775,685	5,218,500	422,815	109%	
旅 費 交 通 費	15,042,098	21,313,580	6,271,482	142%	
通 信 運 搬 費	1,017,103	784,070	-233,033	77%	
減 価 償 却 費	252,000	252,000	0	100%	
消 耗 品 費	670,000	733,108	63,108	109%	
印 刷 製 本 費	3,747,871	2,949,500	-798,371	79%	
貢 借 料		0	0	0%	
支 払 報 酬	5,817,538	8,210,932	2,393,394	141%	
支 払 手 数 料	142,040	436,728	294,688	307%	
新 聞 図 書 費	379,000	343,000	-36,000	91%	
会 合 費	21,737,500	17,655,055	-4,082,445	81%	
E D P 費		0	0	0%	
業 務 委 託 費	70,189,260	65,482,410	-4,706,850	93%	
広 報 費	3,474,000	6,372,000	2,898,000	183%	
諸 保 会 費	930,000	700,000	-230,000	75%	
雜 費	789,000	1,042,000	253,000	132%	
<b>経常費用計</b>	<b>100,614,184</b>	<b>97,724,813</b>	<b>-2,889,371</b>	<b>97%</b>	
管 理 費					
役 員 報 酬	14,550,000	10,650,000	-3,900,000	73%	
給 与 手 当	36,005,000	34,200,000	-1,805,000	95%	
アルバイト料	100,000	500,000	400,000	500%	
退職給付費用	2,292,700	2,537,627	244,927	111%	
退職金共済掛金	720,000	720,000	0	100%	
福 利 厚 生 費	8,492,000	7,979,000	-513,000	94%	
会 議 費	1,233,700	1,696,760	463,060	138%	
旅 費 交 通 費	2,659,000	2,949,550	290,550	111%	
通 信 運 搬 費	1,279,100	1,336,480	57,380	104%	
減 価 償 却 費	2,113,400	2,113,400	0	100%	
消耗什器備品費		0	0	0%	
消 耗 品 費	750,000	896,000	146,000	119%	
印 刷 製 本 費	1,380,000	1,418,000	38,000	103%	
貢 借 料	11,219,252	11,094,452	-124,800	99%	
支 払 報 酬	5,704,608	5,191,704	-512,904	91%	
支 払 手 数 料	203,000	154,000	-49,000	76%	
新 聞 図 書 費	300,000	200,000	-100,000	67%	
水 道 光 熱 費	500,000	516,000	16,000	103%	
租 種 公 課	5,400,000	5,210,000	-190,000	96%	
会 合 費	2,000,000	2,274,000	274,000	114%	
E D P 費	1,849,424	1,830,840	-18,584	99%	
業 務 委 託 費		0	0	0%	
広 報 費	40,000	148,000	108,000	370%	
諸 保 会 費	1,220,000	1,100,000	-120,000	90%	
賃 借 料	250,000	250,000	0	100%	
貸倒引当金繰入	3,000	3,000	0	100%	
雜 費	350,000	2,756,000	2,406,000	787%	
<b>経常費用計</b>	<b>-9,257,977</b>	<b>-9,759,196</b>	<b>-496,219</b>	<b>105%</b>	
評価損益調整前当期増減額					
評価損益等計					
当期経常増減額					
<b>2. 経常外増減の部</b>					
(1) 経常外収益					
経常外収益計					
(2) 経常外費用					
経常外費用計					
当期経常外増減額					
税引前一般正味財産増減額	<b>-9,257,977</b>	<b>-9,759,196</b>	<b>105%</b>		
法人住民事業税	10,000,000	10,000,000	0	100%	
当期一般正味財産増減額	<b>-19,257,977</b>	<b>-19,759,196</b>	<b>103%</b>		
一般正味財産期首残高	298,217,933	298,217,933	0	100%	
一般正味財産期末残高	278,959,956	278,458,737	-401,219	100%	
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
当期指定正味財産増減額					
指定正味財産期首残高					
指定正味財産期末残高					
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>278,959,956</b>	<b>278,458,737</b>	<b>100%</b>		